

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	江古田ここわ保育園
法人名	株式会社ディアローグ
法人所在地	東京都渋谷区渋谷3-8-12 渋谷第一生命ビルディング7階

1. 活動のテーマ

<テーマ>

当園が開園以来継続して行っている教育活動の中の【英語】を活かしながら【ことば】についての探究活動を実践し、非認知能力の向上等の保育内容の充実を図ります。2025年度はことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目をします。

<テーマの設定理由>

当園は開園以来、外国人英語講師が週2日来園し、レッスンでは保育者も生徒として園児と一緒にレッスンを受け、保育者も園児も英語は身近なことばとして存在しています。2024年度は子どもたちが同じ絵本、同じメロディの歌を日本語と英語で体験・体感することで、ことばに対する興味が拡がりました。2025年度は子どもたちがさらに主体性を持って活動するように、ことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目しようと考えました。またこの【オノマトペ】は乳児にも取り組みやすいテーマではないかと考えました。

2. 活動スケジュール

【問いかけ】保育者が動物の鳴き声について幼児クラスに問いかけました。「このどうぶつさん、なんてなくかしてる〜?」「どうぶつえんで、なんてないてたかきいたことある〜?」「ジェシカせんせいはえいごのせんせいだけど、えいごでもおんなじこえなのかな〜?」子どもたちは、「ジェシカせんせいはえいごしかはなせないんだよ〜。でもどうぶつさんのこえはおんなじだよ!」「えいごとにはんごはことばがちがうでしょ? どうぶつさんのなまえもちがうもん。だからなくこえもちがうんだよ〜!」といろいろな答えが出てきました。

【流れ】英語講師の来園日には、英語で動物の鳴き声の入った歌を歌ったり、保育者は子どもたちと一緒に参加します。また自由遊びの時間に保育者が日本語で動物の鳴き声の入った歌を歌い、英語講師は子どもたちと一緒に参加します。また皆で一緒に英語で使っている絵カードで《オノマトペ》遊びをします。このように、子どもも大人も一緒に英語と日本語での《オノマトペ》を共有します。発話が難しい乳児クラスでも日本語、英語の《オノマトペ》を体験します。

【探究活動の実践と記録】英語活動の際には保育者が記録し、日本語活動の際には保育者ととも英語講師も記録し、特に子どもが英語を発している際のことばや音の聞き分けを担当しました。

*読み聞かせ：4歳児クラス *歌：2歳児クラス *カード遊び：1歳児、3歳児クラス

*英語で工作：4歳児クラス

【振り返りや共有】毎月月末に英語講師と職員のブリーフィングをおこなっているので、そこで探究活動の共有を行い、次月の問いを考え環境設定や探究活動のスケジュールを話し合います。保育者同士は職員会議で振り返りや共有を行います。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】 英語講師の来園日に探究活動を行うよう環境を設定しました。

【素材】

* 同じメロディの日本語と英語の歌：「ゆかいな牧場」と"Old McDonald had a farm"

* 絵カード：動物、乗り物、オノマトペ絵カード

* どうぶつ図鑑：本当の動物の鳴き声とは？

* 2024年度に使用した英語の絵本："The very hungry caterpillar", "Today is Monday"



4-①. 探究活動の実践（日本語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」を保育者が日本語で歌う。英語講師も同席して一緒に聞く。

* 2歳児クラス：らずべりー組

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

英語プログラムの前に「ゆかいな牧場」の曲を流し、子どもたちの前に座って保育者が歌った。興味を引き出せるように、ジェスチャーをわかりやすいように大きく行ったり、保育者が楽しく歌うようにした。子どもたちが取り組んだ際には大いに褒めて、気持ちが高まるように関わった。保育者が歌を歌うと、聞き馴染みのある曲だったこともあり、興味を示して身体を揺らしたり、子どもたちなりに歌詞を口ずさんだりすることを楽しんでた。また、保育者や英語講師の動きを真似て、ジェスチャーをすることもあった。

4-①. 探究活動の実践（英語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」と同じメロディ"Old McDonald"を英語で歌う。

* 2歳児クラス：らずべりー組

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

英語講師が子どもたちの前に座り、フラッシュカードを提示しながら「Old McDonald」を歌う。ジェスチャーを大きくしながら歌ったことにより、講師に注目して一緒にジェスチャーを真似する姿が見られた。また、保育者も一緒に歌うと「イーアイイーアイオー」の部分を気に入り、大きな声で歌うこともあった。英語講師が歌うと、興味を示してじっと観察していた。また、ジェスチャーが始まると、日本語の歌の時と同じだったこともあり、楽しんで真似をする姿が見られた。講師の動きと、フラッシュカードを交互に見て確認する見もいた。



5-①. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】2024年度からの続きで、同じメロディを日本語と英語で歌ってみることで、違う部分や、同じ部分を子どもたちが気づくようになってきた。動物の鳴き声を日本語と英語で比較してみたり、どのようなオノマトペがあるのか、それは日本語と英語でどのように違うのかなど、英語と日本語の違いに興味を持つ場面が増えてきた。

【次回への問い】英語のレッスンで使用しているカードをレッスンで使う場合と、自由遊びの中で同じカードを使うことで、子どもたちは英語をより発するようになるのか、またどのようにカードを使って活動するのだろうか？

4-②. 探究活動の実践（英語絵カードを英語レッスン中に使う）

<活動の内容>②英語レッスン中に"Animal"(動物)の英語絵カードを使う

* 3歳児クラス：れもん組

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

絵カードを見て子ども達自身が知っている動物であると、口々に名前を口に出して話をしていった。保育者からも「英語でなんて言うか分かる？」と尋ねられると想像で答えてみたり、黙ってしまったりと様々な反応が見られた。動物の鳴き声を英語講師が口にすると直ぐに子ども達もその動物になりきって鳴き真似をしたり、動物歩きをし始めていた。また隣にいた児にも動物になりきって身体に触れたりと近くにいる他児との関わりを楽しんでいた。

英語での名称が分からない際にも英語講師の発音に続いて直ぐに子ども達も英語で発音していた。ジェスチャーをしながら鳴き真似などを行う時が一番子ども達は伸び伸びと表現をしながらその場を楽しんでいた。

4-②. 探究活動の実践（英語絵カードを自由遊び中に使う）

<活動の内容>②自由遊び中に"Animal"(動物)の英語絵カードを使う。（子どもたちがどのように見立て遊びをするのか、また英語で使っているカードなので、レッスンではなくても英語で言うのか。また英語講師同席の場合と、そうでない場合の遊び方にも違いが出てくるのかなど）英語と日本語のどうぶつなきごえを比較した後、本当の動物のなきごえを図鑑を通して皆で聴く。

* 3歳児クラス：れもん組

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

自由遊びの最中では英語ではなく日本語で「犬だ！」と話をしていった。

英語講師がいる場合には鳴き声なども聞かせてくれ、子ども達も自然と遊びの中でなりきり遊びを楽しんでいた。保育者のみの場合には日本語でのやり取りがあり、鳴き真似も豚の場合は「ブーブー」と発音していた。また好きな動物の話に発展し、各々が好きな動物を発表し始めていた。また保育者にも子ども達から次々に質問があり、動物の住んでいる場所や食べている物などを話す良い機会となった。

4-②. 探究活動の実践（日本語でも英語でもなく、本当の動物のなきごえは？）

<活動の内容>②自由遊び中に動物のなきごえ図鑑を使って本当の動物のなきごえを皆で聴く。

* 3歳児クラス：れもん組

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

鳴き声図鑑では音量も小さい為、クラスで耳を澄ませて静かに聞いていた。特徴的な動物の鳴き声には子ども達同士顔を見合わせて笑っていた。

鳴き声が面白いと感じると笑いで盛り上がり、次の鳴き声を聞く環境取りにくい場面があった。教材がもっと音量が大きく、全体で聞き取りやすいとより良いと感じた。身振り手振りをしながら動物の名前を日本語で叫び、鳴き声も日本語版で真似をしていた。

また、そこから自分達で発展させて自由な鳴き声でなりきっていた。

保育者からも動物の名前を英語で発音し、子ども達に問いかけてみると、単語の内容は理解しており、日本語で返答していた。子ども達から英語で発する事は少ないが、単語の意味は十分に理解している様子が見られた。



5-②. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】 絵カードのイラストがわかりやすく、子どもたちも名前や鳴き声を声に出してなりきっており、遊びを発展させやすい。日本と世界の鳴き声の違いには驚いていて良い刺激の1つとなったと思う。ちょっとしたきっかけで子どもたちの気づきや興味を引き出せると活動として良い機会であると感じる。

【次回への問い】 英語絵カードを違う種類にすることで、動物の鳴き声ではなく、また違うオノマトペに子どもたちはどのように気づき反応するだろうか？

4-③.探究活動の実践（英語絵カードを自由遊び中に使う）

<活動の内容>③自由遊び中に"Vehicle"(乗り物)の英語絵カードを使う

* 1歳児クラス：いちご組

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

今回は絵カードを使い、日本語で子ども達に乗り物を伝えていった。

子ども達は日本語では興味を持って答える姿が見られた為、保育者が英語で発言した際には子ども達は真似して発言するのだろうか疑問であった。乗り物のカードでは、知っている物は日本語で答える姿が見られた。

知っているけど名前が出てこない際には、考える姿や、身振りで伝える姿が見られた。

4-③. 探究活動の実践（英語絵カードを英語レッスン中に使う）

<活動の内容>③英語レッスン中に"Vehicle"(乗り物)の英語絵カードを使う

* 1歳児クラス：いちご組

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

乗り物のカードを見ると、日本語で答える児がいた。英語を発言することは難しかったが、興味を持ってカードを触っていた。講師の真似をして身振り手振りする児がいた。1歳児の為、英語で答えることは難しかった。しかし、子ども達は興味を持ってカードを触ったり、レッスンに参加していた。子ども達のなじみのある物であれば興味を持ち、英語を話そうとするのではないかと考えた。



5-③. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】1歳児にとって英語での発語は難しかったが、カードに触れたり講師の真似をしたりする姿が見られ、活動に興味を持って参加していた。もう少し後半になってくると発語も増えてくる為、より理解が深まっていくと感じる。今後も身近な題材を取り入れて、楽しみながら英語に親しめる環境づくりを心掛けていきたい。

【次回への問い】英語講師、保育者も含めて子どもたちとオノマトペの絵カード遊びを通して子どもたちは擬音語や擬態語にどのように興味を深めていくのだろうか。

4-④. 探究活動の実践（オノマトペ絵カード）

<活動の内容>④保育者、英語講師と一緒に絵カード遊びをする：絵を見て子どもたちが擬音語、擬態語を言う。英語講師も英語で擬音語や擬態語を言う。

* 4歳児クラス：ばいなっふる組

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

講師が持っているオノマトペカードに興味を示して「それなあに？」と聞いていた。

講師の発音を聞いて「きらきら？」「ザーザー雨？」等と自分が知っているイメージを話して楽しんでいた。

・講師が持つ複数のオノマトペ絵カードの中から保育者がランダムに1枚ずつカードを選ぶ引いたカードを全体に見せて、どんな擬態語か尋ねる。

・少し難しいカードもあったが、自分の中で一生懸命に言葉を考えて表現していた。



5-④. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】「ザーザーは雨？」「キラキラは星？」などと自分たちが知っている擬音を考えていた。もう少し種類があるとより興味が深まるのではないかと感じた。

【次回への問い】幼児クラスは英語で工作の時間があり、英語レッスンで学んだ単語にちなんだ工作を毎月行っています。英語で工作の時は英語講師が英語で説明し、保育者も日本語通訳をせず、工作の見本と一緒に作りながら参加し、子どもたちを手伝います。2024年度に読んだエリックカールの絵本"The very hungry caterpillar"と"Today's Monday"を再度英語で読み返し、子どもたちが主体的に、自分の「1週間なに食べる表」を制作してみてもどうか？工作を通して、食べ物への擬態語、擬音語への興味も深まっていくのではないかと？

4-⑤. 探究活動の実践（英語で工作）

<活動の内容>①The Very Hungry Caterpillar、と Today Is Mondayの英語の読み聞かせを行い、その後自分の「1週間なにを食べる表」を制作する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・英語講師が英語で絵本を読みだすと、「前に見たことある。」「知ってるよ。」と以前読んだことを覚えている姿が見られた。

・保育者が「どの食べ物食べたい？」と聞くと、絵を見ながら「今は魚がいい。」などと話していた。

・英語講師が机の上に様々な料理の紙を並べると、「どれにしよう。」「絶対お肉がいい。」などと迷いながら選ぶことを楽しんでいた。

・「1週間なにを食べる表」が完成し、英語講師や保育者が表を見ると、「火曜日が一番好きな日。」「ここに好きなものいっぱい貼った。」などとやり取りを楽しんだり表を見せたりしていた。



5-⑤. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】“はらぺこあおむし”などで馴染みのあるエリックカールの絵本の読み聞かせを行ったことで活動に対して興味が深まったと思う。“1週間なにを食べる表”を作成する中で様々な食べ物の英単語について触れる良い機会となった。活動時だけでなく、給食の献立発表や食事中などでも発音する機会をつくることで更に興味が深まると感じた。

【次回への問い】子どもたちはことばには日本語も英語もあり、またそれ以外に様子を表す擬態語や擬音語もあって、しかもそれらにも日本語や英語特有の音があることに気づいたかもしれない。また園には日本語や英語以外のことばを話す友だちもいることから、日本語英語以外の世界についても興味を持ち探究活動が広げられるのではないか。